

新型コロナウイルス感染対策の考え方

新型コロナウイルス感染対策の基本

どこにいる

- ・ 感染している人が触れた場所
- ・ 感染している人から2メートル以内
- ・ 感染している人のいる密閉された空間

どうやってうつる

- ・ 感染している人が触れた場所を触って、自分の目鼻口を触る。
- ・ 感染している人から2メートル以内に、マスクを着用せずにいる。
- ・ 感染している人のいる閉鎖された空間で、一緒に長時間過ごす。

どうすればいい

- ・ 感染している人が触れた可能性がある場所に立ち入らない、または消毒する。
- ・ 感染している人から2メートル以内に立ち入らない、またはマスクを着用する。
- ・ 感染している人のいる閉鎖空間に立ち入らない、または換気をよくする。

咳嗽飛沫の軌跡 仰臥位



密閉して風の流を止めた場合



換気して風の流を作った場合

長嶺由衣子先生 提供 (COVID-19感染防護資材有志プロジェクト)

咳嗽飛沫の軌跡 体位変換介助



患者がマスクを着用していない場合



患者がマスクを着用していた場合

長嶺由衣子先生 提供 (COVID-19感染防護資材有志プロジェクト)

咳嗽飛沫の軌跡 歩行介助



前から手引き歩行を行った場合



後ろから歩行を解除した場合

長嶺由衣子先生 提供 (COVID-19感染防護資材有志プロジェクト)

COVID-19の地域流行を見据えた施設内感染対策

手指衛生の徹底

適切なタイミング（入居者への接触前・接触後、入居環境への接触後）に手指衛生を行うこと。明らかな手指の汚染がなければ、アルコールによる消毒で15秒で失活する。

ユニバーサルマスクング

感染者は、症状出現の2～4日前からウイルスを排出している。症状だけで入居者を見分けることはできない。医療と介護の現場においては、すべての医療従事者、訪問者はマスクを着用する。入居者も共用空間ではマスク着用を促す。

エプロン・ガウンの着用

COVID-19が疑われる入居者または濃厚接触者、疑われる症状を有する入居者に対して身体密着のあるケアを提供するときは、袖付きのガウンを着用する。

定期的な環境消毒

ドアノブ、テーブル、椅子、照明などのスイッチ、洗面台、トイレなど高頻度接触面については、1日複数回の消毒を実施する。布の表面で2日、ガラス表面で4日、プラスチック表面で7日にわたりウイルス培養が陽性との報告もある。

COVID-19が疑われる入居者のケアの実際

- 原則として聴診、血圧測定などは行わない。問診と触診を基本。
- 施設内に物品を持ち込まない。持ち出さない（紙一枚でも！）
- 不明な点が生じたら、早めに専門家（ICN？）に確認（放置しない）
- 無理しない（させない）、深追いしない。迷ったら退くの原則。
- 自主トレが可能な利用者には、パンフレットや張り紙を準備。
- 安全管理が難しそうであれば立位練習は避ける（転倒に気づきにくい）
- 困ったことや不明な内容はみんなで共有する

患者接触時のリスク評価と対応

		患者	
		マスクなし	マスクあり
医療・介護従事者	マスクなし	高リスク 最終曝露日より14日間の就労制限	中リスク 最終曝露日より14日間の就労制限
	目の保護なし	中リスク 最終曝露日より14日間の就労制限	低リスク
	ガウンなし	低リスク 身体密着あるときは中リスク	低リスク 身体密着あるときは中リスク
	すべて着用	低リスク	低リスク

※1 接触時間は「15分以上」を目安とするが、双方がマスクを着用していないときは、「3分以上」でも感染するリスクがあると判断する。

※2 双方がサージカルマスクを着用していても、大量のエアロゾルを生じる処置を実施した場合には中リスクと判断する。N95マスクを着用していれば低リスクと判断する。

新型コロナウイルス感染症患者に対する積極的疫学調査実施要領

国立感染症研究所 感染症疫学センター

令和2年5月29日版

- 「患者(確定例)の感染可能期間」とは、発熱及び咳・呼吸困難などの急性の呼吸器症状を含めた新型コロナウイルス感染症を疑う症状(以下参照)を呈した2日前から入院、自宅や施設等待機開始までの間、とする。

* 発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐など

- 「無症状病原体保有者の感染可能期間」とは、陽性確定に係る検体採取日の2日前から入院、自宅や施設等待機開始までの間、とする。

- 「濃厚接触者」とは、「患者(確定例)」「無症状病原体保有者」を含む。以下同じ。)の感染可能期間に接触した者のうち、次の範囲に該当する者である。

- ・ 患者(確定例)と同居あるいは長時間の接触(車内、航空機内等を含む)があった者
- ・ 適切な感染防護無しに患者(確定例)を診察、看護若しくは介護していた者
- ・ 患者(確定例)の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
- ・ その他: 手で触れることの出来る距離(目安として1メートル)で、必要な感染予防策なしで、「患者(確定例)」と15分以上の接触があった者(周辺の環境や接触の状況等個々の状況から患者の感染性を総合的に判断する)。

Coronavirus Disease 2019 (COVID-19)



Close Contact

Someone who was within 6 feet of an infected person for a cumulative total of 15 minutes or more over a 24-hour period* starting from 2 days before illness onset (or, for asymptomatic patients, 2 days prior to test specimen collection) until the time the patient is isolated.

** Individual exposures added together over a 24-hour period (e.g., three 5-minute exposures for a total of 15 minutes). Data*

発症 2 日前（無症候者の場合は検体採取の 2 日前）から隔離が必要とされる期間において、感染者から 6 フィート以内に 2 4 時間の累積で 1 5 分以上いた人。

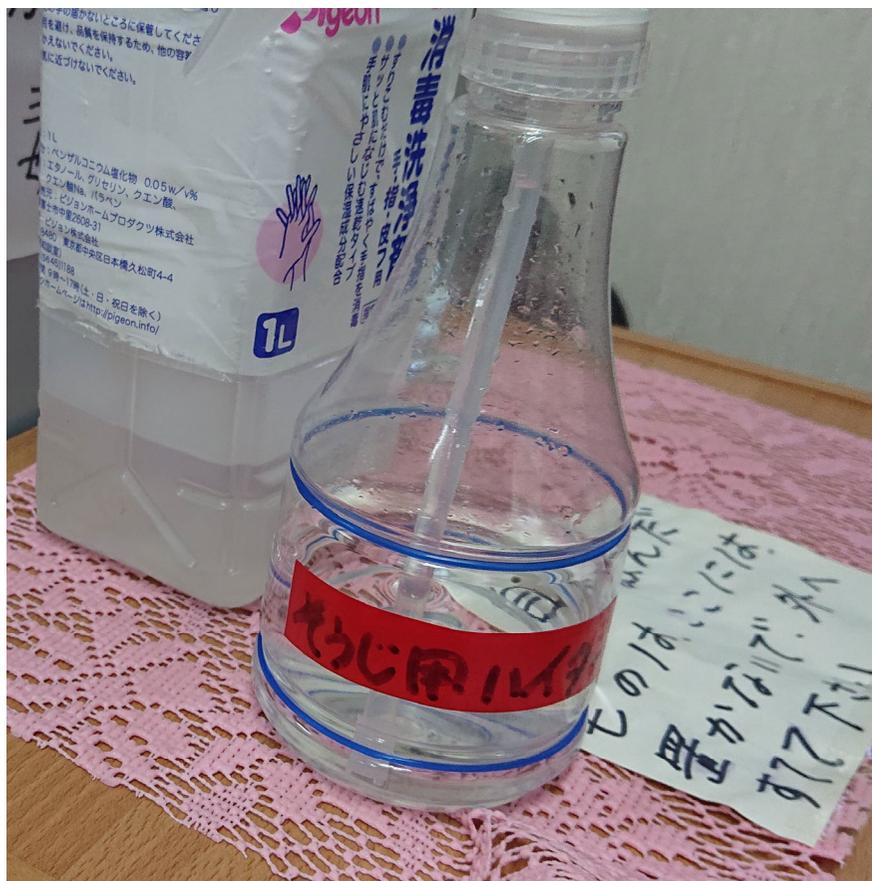
** 個々の曝露は 2 4 時間にわたる合計（たとえば、5 分間の曝露が 3 回あれば合計 1 5 分間）。*

新型コロナウイルスの消毒・除菌方法

	物品	手指	注意点
石鹼と流水	○	○	10秒間で石鹼で洗って 15秒間で流水で流す。
熱湯	○	×	80℃の熱水に10分間
アルコール	○	○	できれば70%以上 少なくとも60%以上
界面活性剤（洗剤）	○	不明	家庭用洗剤を200倍に薄める
次亜塩素酸ナトリウム水溶液	○	×	600ppm程度に薄めて使う 紫外線（日光）で不活化 紙に付着すると不活化 酸性のものと混ぜると危険
次亜塩素酸水	○	不明	有効塩素濃度80ppm以上 20秒間浸した後にふき取る 酸性のものと混ぜると危険 紫外線（日光）で不活化

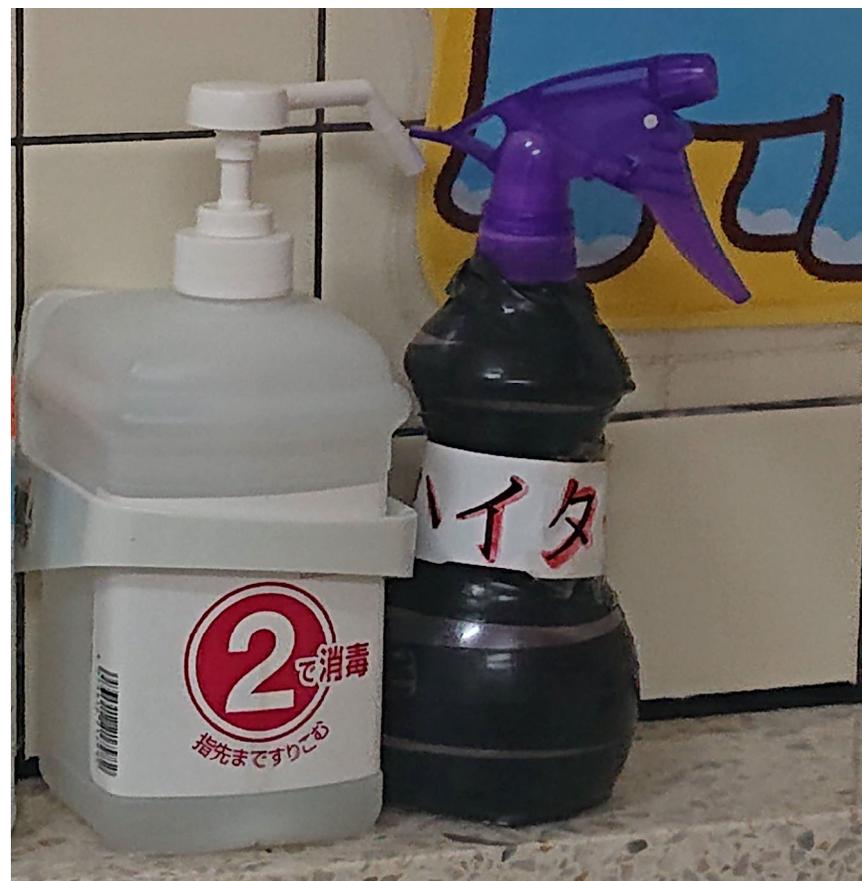
次亜塩素酸ナトリウム水溶液の保管方法

誤った保管



透明なボトルに保管して、自然光が当たっているため、時間とともに不活化してしまう。

正しい保管



黒いビニール袋を使って遮光している。紫外線が入らず、不活化しにくい。

高齢者施設における感染管理の考え方

1) 可能な範囲の心がけでよしとする

様々な事情を総合的に判断しながら、感染管理の落としどころを検討

2) 限られた資器材を効率よく活用する

感染管理に用いる資器材が家庭や施設の負担になることを理解

3) 現場に挫折感や罪悪感を残さないこと

「継続して実施可能な感染管理」と「対策疲れに陥らない期間」を提案

4) 一方的に指導せず参加型で形成する

素晴らしい多様性をもっている暮らしを壊すことがないように注意

5) 標準予防策の遵守は最低限実施する

医療や介護の従事者は、手指衛生のほか、個人防護具を適切に使用

高齢者施設における集団感染事例より

発生状況

- ・ほとんどの事例が、無症候の職員が働いたことによる持ち込み。
- ・ただし、デイサービスでは持ち込まれた経路が同定できない。
- ・デイ利用者に症状を認めても、日中独居では連れていかざるを得ない。
- ・症状を認めた職員が近隣診療所を受診しても検査してもらえない。

発生原因

- ・感染した職員が入所者に食事介助することが高いリスクとなる。
- ・職員はマスクを着用できているが、適切に手指衛生ができていない。
- ・締めきった環境で一緒に食事をするテーブル単位で感染している。
- ・症状を認めた職員に対する診断の遅れが感染拡大の原因となる。

再発予防策

- ・職員が発症したら、PCR検査を実施している医療機関を受診させる。
- ・少なくとも食事の時間は常時換気。テーブルにパーティション設置。
- ・症状のあるデイ利用者が過ごせる日中の受け皿が必要（未解決）。